

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870700345
法人名	社会福祉法人 三善会
事業所名	グループホーム はるか
所在地	愛媛県大洲市春賀甲1666-1
自己評価作成日	平成26年5月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年6月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「自分らしくなごやかに今を生きる」の理念を基に、利用者一人一人の個性や特徴を活かし、尊厳ある生き方が毎日出来るように努めている。毎月行事や、日常の様子等写真とコメントを掲載した「だんらん新聞」を作成し、地域や家族に発信している。毎日定刻に行うラジオ体操や、イージーウォークなどを取り入れ体力維持につなげている。又、裏山の木々や花などでは季節が楽しめる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●ご自宅が近い方とは、散歩時に自宅周辺まで足をのばすこともある。利用者個々に、自宅地区の敬老会やお祭の情報を把握して、参加できるよう支援を続けておられ、利用者は知人から声をかけてもらいたいへん喜ばれ、落ち着く様子が見られるようだ。
●利用者の誕生日には、個々に行きたい場所を聴き、自宅やお墓、自宅近くの海等の希望があり、職員が個別に支援されている。ご家族と相談し、ご自宅にいつでも戻れるよう鍵を預かっているケースもある。西予市城川で行われるかまぼこ板絵展覧会には、毎年利用者職員で一つの作品を出展されており、見に行くことが年中行事になっている。
●水曜日は、前日から利用者に食べたい物を聞き、一緒に買い物をして調理されている。かつて、ごぼうを笹がきにして売っていた利用者は、今でも見事な腕前をみせてくれ、もやしの根とりや寿司の味付け、食後の食器拭き等、利用者それぞれの力量に応じて活躍できる場面を作り支援されている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム はるか

(ユニット名) 1ユニット

記入者(管理者)

氏 名 西本 恵子

評価完了日 26年 5 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 「自分らしく和やかに今を生きる」の理念の基、明るく温かな 我が家をテーマにあげて職員と共有し、日常生活の実践に つなげている。又、「自然との共生」では木造の建物、裏山 の木や草花を楽しみながら、暮らせるようにと整えられてい る。	
			(外部評価) 開設当時つくった理念のもと、管理者は、「仕事の効率では なく一人ひとりの利用者に合わせる事が大切」と職員に話 し、理念の実践に向け導いておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 事業所と地域との付き合いは、開設以来地域の一員であり たいと、行事や清掃活動に参加している。利用者さんも地元 敬老会に招待してもらったり、夏祭り・春祭りには地域に出か けている。秋祭りには、神輿・獅子舞等の訪問がある。	
			(外部評価) 法人誌やホーム便りを地域に配布し、行事報告や慰問の募 集等を発信されている。利用者の自宅地域の行事情報を把 握し、馴染みの行事に参加できるよう支援されている。地方 祭の神輿や獅子舞、亥の子時には、事業所に地域の方達 が来られ、利用者は見学等して懐かしがられるようだ。音楽 や踊りのボランティア、保育園児・中学生とのふれあいも楽し みにされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 事業所では、地域の人々に認知症についてや介護の支援 方法の介護教室を開いた。また、三善会全体の四季報を45 00部発行し、各事業所の情報を地域へとお伝えしている。 又、GHの広報誌「だんらん新聞」を毎月この地域に配布し、 GHへ「はるか」の生活の様子を理解してもらえようお知ら せしている。今後も地域高齢者の暮らしをサポート出来る様 に取り組んでいきたい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 構成員より、地域の行事予定について早目に連絡を受けたり、行政の取り組み等の情報を知る事が出来た。又、利用者さんとのふれあいで外出先の場所や日中の活動方法を知り得、当施設のサービスにも活かす事が出来た。	
			(外部評価) 会議時には事業所から行事や取り組みを報告し、意見をうかがっておられる。地域の役員の方から神社の神楽に誘われ、利用者と一緒に出かけて餅拾いをされたこともある。災害時の備蓄について話し合った際には、法人には備えているが、「事業所でも少しは必要ではないか」という意見があり、その後、事業所で米と水を常備し、定期交換されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 地域密着型サービスとして、運営推進会議以外にも、年5～6回、在宅サービス担当者会を開催して頂き、情報交換や制度等、あらゆる面についても説明を受けている。介護相談員も毎月来て頂き、お話をされたり、話を聞いてもらったり、一緒に余暇活動をしてGHの実情を見て頂き、第3者としての目でGHの成長に協力して頂いている。	
			(外部評価) 地域包括支援センター主催で在宅サービス担当者会が行われており、入居希望者の情報交換したり他施設を見学して学んだり、又、それぞれが抱える課題について話し合い等されている。法人の里祭り時には、市長も出席して賑やかに開催された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全員、身体拘束について身体拘束防止マニュアルなどで理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関など感知式のセンサーを設置しているが、センサーだけに頼るのではなく、利用者が外出されそうな様子を察知したら、一方的に止めるのではなく、さりげなく声を掛けたり、一緒に同行する等、安全面に配慮しながら、鍵をかけない自由な暮らしを支えるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 以前、利用者が庭で転倒したことがあり、玄関とデッキの出口にはセンサーを取り付けており、職員の人手が少ない時間帯には玄関を施錠している。運営推進会議時には、駐在所の警察官を招いて徘徊や行方不明の実態、家族との連携が必要という話をしていたこともある。利用者の自由で安全な暮らしについては、利用者の立場に立ち、職員やご家族と話し合い、今後もさらにケアに工夫を重ねていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 法人内の研修にて虐待について学んでいる。虐待が見過ごされないよう注意を払い、虐待の防止の徹底に努めていきたい。言葉の虐待についても注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護については学ぶ機会があれば積極的に参加して学ぶ機会を持つようにしている。また、成年後見制度については必要な方が出来れば、関係者と話し合いながら、活用出来るよう対応していきたい。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に担当(管理者)が、時間をかけて説明を行い、同意を得ている。事業所で出来る事・出来ない事を明確に伝え、入所生活においてトラブルがないよう、事前に説明し理解し納得してもらっている。、契約前には見学して頂き家族の疑問点などを訪ねて、十分な説明を行っている。又改定の際には説明を行い納得の上で同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 契約書に、外部へ連絡が出来るよう記載していることを説明している。又、介護相談員2名の1ヵ月に1度訪問があり、相談出来る体制となっている。又、家族会があり、利用者・家族が意見の出し易い雰囲気になっている。「家族の声」が施設サービスの向上に大切な事を職員で十分話し合い理解している(意見箱を設置)。その他にも法人内で苦情処理委員会を設け外部の方に報告して、年2回アドバイスを受けている。 (外部評価) 年3回、家族会を実施し、サービスへの意見をうかがい対応されている。居室は、湯を使った暖房器具のみを設置していたが、ご家族から「夏は暑い」という意見があり、全居室にエアコンを設置された。前回の家族会では、「職員の名前が分かるよう家族会では名札をつけてほしい」という意見があり、次回から名札を付けることを決めておられた。室外機の上に雨が落ちるのを見たご家族が、雨どいを延長して取り付けてくれている。行事写真をいつでも見ていただけるように、年次アルバムにまとめている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回、法人全体の職員会と、GH内の定期ミーティングがあり、全体の報告があったり、意見を発表したりして、情報の共有、研修報告、提案があれば話し合う環境を作っている。又、個別に意見等も聞き改善策に心がけやりがいいが見いだせるように心がけている。(報告・連絡・相談の結果報告)	
			(外部評価) 職員は、ミーティングや気づいた時に提案し話し合っ、取り組みをすすめておられる。職員はエプロンを着けてケアを行っているが、「食事に関わる時間は交換した方がよいのではないか」という意見があり、食事用エプロンを用意して使い分けるようにされた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 事業計画に基づき、各自スタッフが目標を立てやすいような業務管理シート作成、それに対ししっかりと業務が出来たか人事考課表で評価。就業規則の見直しをし、職場環境の改善を図っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人トップより定期的に計画を立て、職員研修を実施している。法人の基本方針・社会的ルール・マナー・制度について等、幅広く人材育成に努めている。又、外部研修に全職員が参加出来るよう配慮し、職員の介護力の向上に努めている。新人研修では同世代との交流が持てるように計画した。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議構成員として、お互いに訪問して交流を行っている。又、市や協会の研修会や担当者会があり、情報交換をしている。今後も継続して、地域の同業者と相互の見学・交流をし、情報交換をしていきたい。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 出来る限り、本人が今まで生きてきた歴史をそのままGHでも継続し、安心して過ごして頂けるよう本人・家族より傾聴・受容し、意向を十分受け止めた上で話し合いを行っている。本人に受け入れて頂けるように職員との関係作りを大切にしている。また、支援方法も話し方や声のトーンそして目線や表情など、話し易い雰囲気作りに心がけて安心安全の信頼関係を築けるように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の意向や不安などを受け止め、ここでの生活状況を説明し、信頼関係を築き、安心した生活が送れるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 必要な支援を明確にし、本人や家族の思いを受け止め、相談に応じ、必要であれば他事業者のサービスに繋げる対応を行った。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の意欲などを尊重し、手伝いや役割りなど協力して行えた。、又レクレーションを通じて共同作業、そして外出など他者との交流・関係が築けるように配慮した。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会などを通じ、家族と本人が共に楽しめ、絆を深め会えるよう支援し、又職員が一方的に支援していくのではなく、家族にも協力して頂けるようにと関係づくりに心がけた。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族などの協力を得ながら、馴染みの人や場所・昔ながらの店等、関係が途切れないよう配慮・尊重し、本人が満足されるよう努めた。家族の訪問があった時などは関係が継続できるように支援に努めた。地元の敬老会に出席したり、自宅周辺を散歩し、知り人に話しかけてもらえ関係が続いている。 (外部評価) ご自宅が近い方とは、散歩時に自宅周辺まで足をのばすこともある。利用者個々に、自宅地区の敬老会やお祭の情報を把握して、参加できるよう支援を続けておられ、利用者は知人から声をかけてもらいたいへん喜ばれ、落ち着く様子が見られるようだ。誕生日には、その方の行きたい場所・会いたい人・買いたい物・食べたい物等を聞き、かなえられるような支援に努めておられる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 職員が利用者同士の関われる時間を設け、一人一人の表情や日々の状態、性格を把握した上で、利用者同士がより良い関係が築けるような働き・仲立ちをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方にも近況の広報誌を送ったり、手紙や電話での会話で継続的なかわりを持てている。又他事業所へまわられた方にも時々面会に行っている。今後サービスを終了される場合があっても、継続的なかわりが出来るような関係を築いていきたい。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日常のコミュニケーションの中から、本人の意思や思いをくみ取り、記録に落としミーティングやケアカンファレンスで話し合い、情報の共有・利用者の思いの実現に向けての検討を行っている。	
			(外部評価) 職員は、日々利用者に接する中で、利用者の思いや変化を汲み取るようにしているが、記録に残すことにはつながりにくいようだ。	さらに、利用者のその人らしい暮らしを支援していくためにも、アセスメント項目等も工夫して個々の情報を蓄積し、支援につなげていかれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 誕生日には本人の希望された場所への外出援助を行っている。生まれ故郷や自宅へ帰ってみたいと希望されるときには、付き添って行くときもある。より一層の生活環境の把握ができていく。何気ない日常会話や家族との会話など面会時に失礼のない限りで情報を集めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者状況チェック表(生活一覧)を作成し、毎日記入しながら生活援助を行う事で、介護員が利用者全員の一日の過ごし方やリズムが分かりやすく、一覧で見える事ができる。又、毎朝晩の申し送りにより、スムーズに職員に現状把握が出来るよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎月、職員ミーティング時にケアカンファレンスを行い、全職員の意見交換・提案などが活かされている。又、モニタリング(3か月に1回)を実施。ご家族・本人・職員参加してのサービス担当者会を定期的開催し、ケアプランの作成・見直しを行っている。又、本人・家族・医師の意向や意見も含めて、新たな計画の情報収集・意見交換を行い、新たな計画に活かしている。	
			(外部評価) 介護計画に沿って3ヶ月に1回モニタリングを行い、ご家族来訪時には、ケアについての意見をうかがい、次回の計画作成時に採り入れるようになっている。	介護計画に沿った支援が実践できるよう、この機会を活かして、アセスメントから計画作成につなげ、さらにはモニタリングして見直す仕組みを見直してみてもどうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別にファイルを用意し、状態観察記録はエピソード・医療関係の記録・日々の気づきなど記入している。又、利用者状況一覧表で、一日の利用者の方の生活スタイルが一目で把握できるようになっている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて、受診・送迎・他サービス利用などの必要な支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努めている。(家族同行困難時は、職員同行にて法人内介護タクシー利用)・花見ドライブなどでは、事業所の車を利用して多人数が参加することが出来る。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 法人内にデイサービス・在宅支援センター等在宅サービス事業がある。必要時には介護タクシーを利用し、外出拡大の支援を行ったり、家族との外出を支援している。地域の介護相談員に毎月来て頂き、利用者の生活の様子等を見て頂き、協力しながら支援している。デーサービスでも踊り、歌など楽しみな行事には声を掛けてもらって一緒に楽しんでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医の往診が2週間に1回あり、状態の変化に応じて受診や往診を依頼している。適切な医療を受けられるよう主治医・家族との連携を密に行っている。必要に応じ、家族にも協力、同伴して頂いている。	
			(外部評価) 入居時、利用者、ご家族には、往診可能な協力医を主治医に変更してもらえるようお願いされている。通院には、介護タクシーを利用して職員が付き添ったり、ご家族が通院介助されている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 主治医と連携を図り、いつでも気軽に相談出来るようになっている。現場にも正看護師を配置し、報告・相談できる体制となっている。又、他事業所の看護師にも協力して頂いている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が入院された場合には、家族が来られるまでの入院時の付き添いなど経緯を説明している。又入院となった時には担当者をはじめ介護職員が面会に行き、入院時の状態把握・家族への支援に努め安心を得ている。病院からの退院サマリで不明な点や留意事項は医療機関への相談を速やかに行うようにしている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	(自己評価) 主治医・家族との連携を図り、いざという時に早期対応が出来るように早い段階から状態の変化について話し合いをしている。症状悪化時、家族と主治医・本人・GH職員で今後の話し合いを持っている。GHで対応出来る事・出来ない事(医療行為)を職員一人ひとり周知している。又、家族会で集まって頂いた際、終末期のあり方について、ご家族の方の意見も伺っている。	
			(外部評価) 入居説明時に、「食事ができなくなった場合どうするか」ご家族で話し合っただけようお願いされている。又、「胃ろう等の処置をせず、ご家族の協力もいただけるようであれば看取りを支援できる」ことを説明されている。ご家族は、「最期までここで見てほしい」という方や介護老人福祉施設を申し込む方もあるようだ。協力医は、24時間いつでも相談でき、往診してくれるようになっている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変事態のマニュアルがあり、すべての職員が把握できており、対応することが出来る。又、母体施設を中心に全体でも、行政関係者・消防署の協力を得て、救急手当や蘇生技術の研修を実施し、すべての職員が対応できるようにしている。母体施設にAEDを設置して、施設だけでなく、地域の方への呼びかけを行っている。今回当施設でもAEDを設置し同様に行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 2か月に1回利用者と共に避難訓練を行っている。又、火災通報装置を設置しており、速やかな対応に努めている。実施するごとにマニュアルの見直しを行い、良いマニュアル作成に取り組んでいる。又、消防署の協力を得て、訓練について定期的に指導頂いており、法人全体の協力も得ている。又、地域消防団の方にも火災や災害時等協力して頂けるようになっている。 (外部評価) 消防署や地区消防団の協力を得て避難訓練を実施し、火災通報装置は消防団長に通じるようになっている。事業所の裏山が崩れそうになった場合は、一番遠い居室に集まることを職員で申し合わせている。運営推進会議時、地区の防災対策委員からは、早めに小学校に避難するようアドバイスがあった。地震等の災害時には、法人施設同士で助け合うことになっている。トイレや居室には「避難札」が掛けてあり、外すだけで避難したことが分かる仕組みを作っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 排泄の誘導・介助や確認・失禁の対応については、不安や羞恥心プライバシーに配慮している。申し送りについても利用者のいる所ではしないように配慮している。 (外部評価) 法人誌やホーム便りへの写真掲載については、入居時に了解を得ており、ご家族と一緒に写っている場合はその都度了解を得ておられる。洗濯物を「自分で干したい」と希望する利用者には、入浴後に洗濯が終了とその方の分を寄り分けて届けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者のペースに合わせた声掛けを行い、意思表示が困難な方には、ジェスチャーや表情・筆談などで対応し、本人の意思を尊重している。又、小さい事でも自己決定出来るように気を配っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々の体調やペースに合わせ、又本人の気持ちを尊重した 個別性のある柔軟な支援を行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 着替える時にはどれを着るか選んでもらったり、利用者の希 望に合わせて出張美容院の支援を行っている。又外出時 にはおしゃれをして出かけるように、心がけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一人ひとりが楽しみになるような献立になっている。なおいっそう楽 しみとなるように、一週間に一度ではあるが利用者から希望を聞いて 前日の買い物に同行から、当日は準備そして、片づけと手伝っ てもらっている。季節を取り入れたり、調理を楽しんだりと献立に工 夫している。その人に会った手伝いを無理のないよう毎日職員と一 緒に行ってもらっている。食事がゆっくり楽しみになるようにさりげな く目配りやその人のペースで介助支援に心がけている。 (外部評価) 朝・夕食は、法人の栄養士が立てた30品目献立に沿って一括購入 した食材が届き、事業所で調理しており、昼食は、出来上がった食 事が届き、事業所で注ぎ分けるようになっている。水曜日は、前日 から利用者に食べたい物を聞き、一緒に買い物をして調理されて いる。かつて、ごぼうを笹がきにして売っていた利用者は、今でも見 事な腕前をみせてくれ、もやしの根とりや寿司の味付け、食後の食 器拭き等、利用者それぞれの力量に応じて活躍できる場面を作り 支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養士による献立表の作成により、栄養のバランスのとれた食事が 摂取出来ている。摂取量が少ない場合には、補助食品で対応した り一度に食べれない方には分けて食べて頂くなど柔軟に対応して いる。又、水分補給も個々の好みに合わせたものを提供すること で、水分量が確保できるように努めている。食べる量・水分摂取量 については適時確認・記録している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 食後の歯磨きへの声掛け・見守り・介助は原則毎日行っているが、 朝、昼の口腔ケアの習慣がついてない方や困難な方には時間を おいて対応するなど清潔保持に努めている。うがいも困難な方 には、スポンジ・ガーゼなどを使用して、残碎物が残らないように努め ている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄パターンを把握し、早めにトイレの声掛けや個々の様子等、自立に向けた支援を行っている。又、安心して排泄が促せるよう環境作りに努めている。	
			(外部評価) 事業所では、ご家族のおむつ代の負担軽減も考慮して、取り組みをすすめておられる。終日、紙パンツを使っていた利用者が、排泄パターンに合ったトイレ誘導と布パンツにパッドを組み合わせることで、紙パンツは夜間と外出時のみの使用となったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防の為、牛乳や植物繊維の多い食材をおやつに取り入れている。又、栄養士による献立表作成により、バランスのとれた食事を提供することが出来る。又、毎朝定刻でのラジオ体操やレクリエーション・個別の体操や運動などで、薬だけに頼らないよう工夫し、対応している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 浴室からは裏庭が眺められ緑や花が楽しめるようになっていいる。入浴は本人の状態に配慮しながら入浴して頂いている。入浴が好きでない方には無理はせず、声掛けや対応の工夫などを行って気持ちよく入浴できるように努めている。重度で浴槽に入れない方も事業所を利用し隣のデーサービス春賀で特浴をお借りして浴槽内に入れている。又、他利用者からも広いから、お風呂屋さんみたいで気持ちがいいの声も聞くことが出来ている。	
			(外部評価) 事業所の浴室は一般家庭のような浴槽が設置されており、季節の花を眺めながら入浴できるようになっている。午前でも午後でも入浴できるよう準備しており、午前中に入浴を断る利用者には、午後の最後にもう一度誘う等して、利用者が入浴に気持ちが向く時に支援できるよう努めておられる。午後は、併設のデイサービスの浴室を使えるようになっており、介護度重度の利用者は機械浴を利用している。又、銭湯気分を味わいたい方は、広い浴槽を利用できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体調不良足の浮腫がある人にはベッドで足を高く挙げて休んでいただくなどの支援をしている。日中はレクリエーション活動や本人の興味のある事や好きな活動をして頂き、生活のリズムを作り安眠に繋げている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬一覧表を作成し、いつ何を飲まれているのかが一目でわかるようにしている。また目的や副作用などが記載されている用紙がある。職員の申し送りでも確認している。症状の変化にも留意し、主治医との連携をとりながら本人にあった服薬・調節を行っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人一人の力を発揮出来るよう、個々の得意な分野や好きな事を活かした無理のない役割をして頂いている。手伝いを頼んだ場合には感謝の気持ちを伝え、本人のやる気につながるように勤めている。外出や行事への参加など楽しみなことを利用者と共感できるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望や天気に応じ、気分転換を図れるように日常的に散歩を取り入れている。一人一人の楽しみに合わせてドライブを計画したり、四季を感じてもらえるように裏山に出て気分転換を楽しんでもらっている。又、誕生日の希望をお聞きして希望に添えるよう家族にも協力をお願いして取り組んでいる。(自宅に帰りたい。墓参りがしたい。海が見たい)等 (外部評価) 裏山や周囲の田園地帯が散歩コースとなっており、利用者は複数でおしゃべりしながら散歩することを好まれるようだ。利用者の誕生日には、個々に行きたい場所を聴き、自宅やお墓、自宅近くの海等の希望があり、職員が個別に支援されている。ご家族と相談し、ご自宅にいつでも戻れるよう、鍵を預かっているケースもある。西予市城川で行われる、かまぼこ板絵展覧会には、毎年利用者職員で一つの作品を出展されており、見に行くことが年中行事になっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在利用者さんは現金を持っておられない。家族より事務所に必要な額は入金されているので 利用者が外出されたり、行事の時にはお金を手渡しして自分で支払って頂く等工夫をしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族に電話をしやすい雰囲気作りを行い、気兼ねなく話せるように事務所で利用してもらっている。不安なときなどは落ち着かれるので職員からの声掛けを行っている。(家族に了解を得ている。)年賀状や暑中見舞いを出したり返事を利用者の思いをくみ取って支援を行っています。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節の花を玄関や洗面台等に活けて季節を感じて頂けるような雰囲気づくりを行っている。又中庭は屋内から季節を感じられるような作りになっている。利用者の皆さんと、プランターに季節折々の花を植えて季節感を味わっている。木陰の下で水撒きをしたり、またすだれをして日差しをよけたりと自然との生活を楽しんでもらえるように取り組んでいる。	
			(外部評価) 事業所は、裏山には四季折々の花、周囲の水田では稲の生長が見え、蛙の合唱が聞こえ、いのししや野うさぎも見かけるといふ自然豊かな環境に立地している。木を多く使った建物に天窓からの自然光が差し込み、中庭の山ぼうしが緑の影を作っている。調査訪問時、利用者はそれぞれに過ごされており、テーブルを囲んでいるグループや中庭を隔てたスペースにあるテレビを囲んでいるグループ、又、玄関から田植えした田を眺めている方等がおられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 玄関や談話室コーナー等、建物の一画一画にイスを置き、誰でも休める空間を作り、一人でゆったりと過ごしたり、仲の良い者同士で過ごす事が出来るようにしている。ホールの席は気の合った人と近くに座れるように気を配っている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の馴染みの物・必要とするものを持って来て頂き、居心地がよく不安を与えない居室作りに配慮している。	
			(外部評価) 各居室に天窓があり、湯暖房とエアコンが備えてある。寝具は各自で持ち込まれており、衣装ケースや椅子等も持ち込まれていた。居室でくつろぎながらリモコンを操作して、好きなテレビ番組を楽しむ方もいる。窓際にはベッド柵の高さに柵があり、家族写真や小物を並べておられた。転倒する心配がある方には、ベッド降り口にセンサーを設置して、音が鳴ると職員が駆けつけるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を生かした環境作り 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	(自己評価) 本人にとって「何が分かりにくいのか」「どうしたら本人の力で出来るのか」を追求し環境整備に努めている。状態が変わり新たな混乱や失敗が生じた場合は適時、職員一同で話し合っって本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せる環境作りが出来るよう試みている。	